

「決議」

関西電力は、イギリスへのMOX燃料返還輸送を中止せよ！

TM 事故 23年にあたる今日、世界は脱原発、脱プルトニウムへと歩み始めています。

しかしながら日本では、いまだに世論の脱原発の流れを見通せないまま、日本政府と電力会社は、原発推進、プルサーマル計画推進を前面に押し出し、「原子力教育を総合学習で！」など、学校教育に原発推進教育を持ち込み、子どもたちを「明るい未来への展望のない世界」へ引きずり込もうとしています。子どもたちを決して原子力の犠牲者にはなりません。

関西電力は、あくまでもプルサーマル計画を推し進めようとしています。

BNFLのMOX燃料加工データ改ざんで欠陥の発覚した高浜原発用MOX燃料をイギリスに送り返し、加工し直してプルサーマルをおこなうと、福井県に報告しました。

関電は、私たちとの交渉の場では、「MOX燃料として不十分なものは返送したいし、今後のBNFLとの契約は白紙である」と言いながら、福井県では、関西電力の辻倉米蔵若狭支社長は「返還後、プルトニウムは燃料に加工し直して国内で使う」とプルサーマル計画を推進するための返還であることを鮮明にしました。

BNFLのMOX燃料輸送専用船で3月25日、航行中に火災事故が起きました。

BNFLの再処理・MOX燃料加工施設をめぐっても、アイルランドでは130万の家庭から英国政府・王室・BNFLへ抗議はがきを集中しようという国民的な反対運動が最近提起され、アイルランド政府がそれを支援しています。ノルウェーでは、ロブスターが放射能汚染されているというショッキングなニュースが報道され、ノルウェー首相がテレビを通じて、街頭のたいまつデモに参加し英国政府に抗議するよう国民に呼びかけました。また、カリブ海共同体は日本政府に対し、高浜4号用MOX燃料返送のためのカリブ海通航に反対の意思を表明しています。アイルランド政府も反対を表明し、合法的な阻止行動をとると宣言しています。

MOX燃料輸送は、海難で海洋を放射能汚染し、沿岸諸国の住民の健康と経済に深刻な打撃を与える危険性があり、また、核拡散の危険を伴います。今回の返送はプルサーマル用燃料に加工しなおすための輸送であり、MOX燃料として再び返ってきます。プルサーマル計画を推し進めるための返送です。

私たちは、この返送に断固反対します。私たちは返送に反対し、再処理MOX燃料加工による放射能汚染に反対する世界のすべての人々と連帯します。

私たちは関電に対し、プルサーマル計画を全面的に撤回すること、イギリスへのMOX燃料返還を中止することを強く求めます。

2002年3月31日

TM 事故から23年のつどい 参加者一同